

西成区「あいりん地域のまちづくり」 第15回労働施設検討会議 議事概要

1 日 時 平成29年1月25日(水) 午後7時00分～午後9時00分

2 場 所 西成区役所 4階 4-8会議室

3 出席者

(有識者4名)

福原大阪市立大学大学院経済学研究科長

寺川近畿大学准教授

ありむら釜ヶ崎のまち再生フォーラム事務局長

織田釜ヶ崎のまち再生フォーラム代表理事

(行政機関14名)

大阪労働局 大谷会計課長補佐、五代儀職業対策課長補佐、ほか2名

大阪府商工労働部雇用推進室労政課 地村参事、芝課長補佐、ほか4名

西成区役所事業調整課 室田課長代理、狩谷係長、ほか2名

(地域メンバー13名)

西村萩之茶屋第1町会長

川村萩之茶屋第2町会長

茂山萩之茶屋第9町会長

松繁釜ヶ崎資料センター

山田大阪府簡易宿所生活衛生同業組合理事長

山田NPO法人サポータィブハウス連絡協議会代表理事

佐藤公益財団法人西成労働福祉センター業務執行理事

吉岡釜ヶ崎キリスト教協友会共同代表

本田釜ヶ崎反失業連絡会共同代表

山中釜ヶ崎日雇労働組合委員長

野崎全日本港湾労働組合関西地方本部建設支部西成分会代表

稲垣釜ヶ崎地域合同労働組合執行委員長

水野日本寄せ場学会運営委員

4 議 題

・本移転施設の機能について

「日雇労働の研修、職業訓練」の検討

・仮移転施設の整備について

「労働施設仮移転計画」の検討

「仮移転施設供用終了後の活用方法」の検討

・意見交換

5 議事内容

(1) 前回会議（第14回労働施設検討会議）の振り返り（略）

(2) 第15回会議の主な議事の内容

《本移転施設の機能について》

○「日雇労働の研修、職業訓練」について

- ・ 新しい労働施設における職業訓練のイメージを説明したい。
センターとして行なう業務は、職業紹介、技能講習、生活相談。
平成13年からの技能講習事業を踏まえ、センターのさまざまな機能にもとづいてのイメージをこの一ヶ月間でまとめた。実現可能性や予算の根拠については未調整なので、その点をご理解いただきたい。
まず資料について、あいりん地域をとりまく3つのポイントである労働者ニーズ、地域ニーズ、業界ニーズを加味した具体的な提案を検討した。
この会議の場でも色々とお話を伺ったが、現場に入るのにも資格が必要。最近では若くても建設業の経験が無い人も多い。そんな人に技能を修得してもらう、場合によっては職種転換をしてもらう。基礎学力をはじめ、相談、訓練などで、ご自身のやる気を引き上げていってもらおう。
また、さまざまな事業所ニーズや、どのような訓練を受けたいかなどの労働者ニーズの把握を通じ、労働者、事業所、業界のニーズのすり合わせが必要だと認識した。
専門の工事協会団体にヒアリングをしたところ、鉄筋工、とび等の職人が非常に不足している。これらは賃金単価も高く、若い人を育成したいが、人が集まらない状況で、学校関係とタイアップした色々な仕組みづくりも進んでいる。技術の継承が大きな問題で、例えば今宮工科高校では鉄筋工の出前講座なども行なわれている。
また、最近ではホテル業界では清掃、ベッドメイキングなどもニーズが高い。清掃の体験講習をやっており、高齢でも就職できている例が出ている。
地域の中を見たときにどういうニーズがあるのか。目に見える資源や支援がある中で、地域で訓練して雇用まで結びつけることができないかということで検討した。
単なる資格の取得というわけではなく、幅広い層の年齢にあった人材育成、職業訓練というイメージで考えている。
ポイントは新しいセンターの中で職業訓練を受けられること。今までは地域外の訓練所で資格を取ってきた。地域の中でいくつかの資格を取ることができれば、自分の意識が変わる。地域の人々の目も変わる。さらに求人ニーズが高い人手不足の事業所からもニーズが出てくる。やがては建設業だけでなく運輸、製造、サービス業にもニーズを広げていく。それを受けて、事業所からも訓練についてのアプローチも見込める。職業訓練を地域でやるメリットは、頑張っている姿を見ることによる好循環が期待できること。
今は京都まで訓練に行っている。可能であれば簡宿と宿泊契約をするなどの働きかけをしていきたい。頑張っている人を地域で応援していく仕組みづくりが必要。
まずは実技スペースが必要。講座ができる教室や施設。訓練内容のイメージとしては玉掛、クレーン、高所作業車などを考えている。カギとしては、現場で「この資格があれば」といったもの。こういうイメージが広がれば、職人メニューのパッケージ化や業界、大学、高校と連携をした取組みなども考えられる。
- 今の話はあいりん職安がやることではないのか。職安は何しているのか。少しでもそんなことをやっているか。
- ・ 厚生労働省からセンターに委託をさせていただいている。ハローワークで直接は行なっていない

いが国の委託事業としてやっている。

- 職安は何をやっているのか。きめ細かい紹介とっておきながら、一件も仕事の紹介をしていない。
- ・ そのテーマは来月議論したい。職業訓練事業は厚労省が事業を募集しており、センターが応募して、受託している。そういう形で取り組んでいる。
- 労働福祉センターがやっていることぐらひは、国がやるのが普通だろう。
- ・ 民間への委託というのは、民間のノウハウの活用を期待し、国が委員会を設けて適正に委託しているもの。国が直営で職業訓練をするというのは、なかなか無い話です。
- 私は、それは国が直接やるべき事業だと思っている。
- 労働者で手に職を持っている人は少ないのか。
- 工事の親方がツテを辿って労働者を雇うが、同じ親方に雇われればいいが、センターでは腕があっても実績や何年働いていたとか証明できないので、違うところでは、また素人扱いから始まる。センターがやろうとしているのは、ジョブカードのような業界が認めてくれる基準を作ろうとしてくれている。問題は業界の信頼を得られるような認定制度を構築できるのかである。
- ・ ジョブカードは職歴を詳しく書いた履歴書のようなもの。2014年頃から各地の商工会議所が運用していた。余り広まったとはいえないが、地域によっては金属機械関係の業者が集まって、それを評価基準にして採用した例があった。行政機関がタイアップして運用していくという例があった。関西圏の建設業者とセンターと国で推進する話であれば、これは結構面白いと思う。
- ・ 建築家として認識していることがあるので話したい。今、全国の空き家をどうしていくか、密集地の防災をどうしていくかということが社会問題化している。
建物の再生については、職人が必要だが、人数が減少している。職能として左官屋さん、電気、設備、解体、そういうことができる人はこの地域にとっても重要。そういった方向性と親和性は高い。センターが職人の育成を支援する。そのようなイメージ戦略を持つことが大事である。
- ・ 5年ほど前から躯体ととび工、行政のタイアップとして講習を行なっている。難しい問題は、参加者の講習中の収入をどうするかということ。仕組みとしては1ヶ月間ほど協力企業で働き、お互いがOKであれば、傘下の事業所に入る形になる。「建設の匠」として5名ほどピックアップしたが、問題は既存の事業所に所属している人ばかりだったこと。結果的に引き抜きになってしまった。発想としてはよかったのだが、上手く続かなかったので、何らかの工夫が必要。
- 以前、鉄筋工のマニュアルを配布したら結構ニーズがあった。この人はこんな技術を持っていますということが分かるカードのようなものがあればいいのかもしれない。NPOのお仕事支援部がやっているリフォームの仕方を覚えてもらっても、やっぱり営業が難しい。手先が器用で、外交ができる人でないといけない。外交までできるような人材育成がいる。西成で雑用業務のワンコインサービスは流行らなかった。そういうことをやろうとすると、全てをよくわかっていないといけない。材質、どんなビスでとめるのか、などの知識があって、その上でお客とのやり取りができないといけない。
- ・ 社会的な潮流が変わってきているところがあり、とにかく職人が足りない。今は現場でも寄添い型というか、学生でもいいからほしいとリフォーム業者は言っている。
- ・ 大卒新入社員の人材育成でコミュニケーションや対人関係が評価の対象になっている。人材育成は技能も大事だが、人との関係作り。企業では先輩の横について仕事を覚えていくということは多いが、日雇いの世界でこれがどこまで実現可能なのかが問われる。
- ・ まち全体のランドビジョンから言えば、資料4ページに新たな若者の学びの場にとあるが、高齢日雇い労働者が集まるまちというところと合せて、どのようなメッセージを発信するか、ランドビジョンづくりに入れてほしい。

- A'ワーク創造館（大阪地域職業訓練センター）でビジネスマナー講座のようなものやっていたと思うが、同じようなものをやるということか。
- ・ ああいう講座は必要だろうと思っている。
- ・ A'ワーク関係の仕事には関わりがあるので、必要なら取り持ちます。
日雇い労働者もこの地域の中で、先輩から紹介してもらおうとか教えてもらおうとか、そういうことは存在していた。だけど、今の若者につながっていかなかったのかと。だから、そういうものを若者にうまくつなげるというような役割を、センターが担っていくと面白いのではないかと思う。
- 私も技能講習で資格をいくつか取っていて、それですぐに助かった。
このまちの先輩労働者に連れていかれて、現場で直接先輩から技能講習をさせてもらって技術を上げていった。本来はずっと親方について学んでいくのだが、日雇いとなると先輩となる。若いころは資格が無いのにある振りをして現場に入って学んだが、今はハタリだけでは通用しない。技術にしても資格にしても持っていないと現場にも入れない。技術習得と資格取得は大事。
こういった学ぶ姿や仕事をしている姿を地域が見えるようにしたら、子供もそうだが、こんな作業の訓練をしている、こんな作業をしているということがまちの中で見えれば、まちの雰囲気はずいぶん変わるのではないかと期待できる。
私が知らない分野も含めて、いろいろなものが見えれば興味を持つことになる。こういうものに力が入られるのならセンターの役割は大きいし、個人的には希望を持っていける。
- 極端な話だが、キザニアの大人版だな。
- いい提案だとは思いますが、現実的な部分と夢の部分がごっちゃになっている。
センターを職業訓練所にするという話だから、応援はしたいが夢物語だ。
夢の実現をプログラムしていけばいいが、現実の部分としては、センターが必ずしも国事業を受託し続けられるとは限らない。
だから、現実的な部分と夢の部分を分けて考えてほしい。
- ・ そればかりではいけないが、夢を語ることは大事。
新施設の在り様を次回も議論したいと思う。
ひとまず、本日はこの件はここまでで、次回いろいろなご意見を頂戴したい。

《仮移転施設の整備について》

○仮移転施設の基本レイアウトの検討

- ・ 予算の概要についてご報告されたい。
- ・ 来年度の予算について、国はまたの機会となるが、まず大阪府分の予算案の概要を説明させていただく。
- ・ 次に、センターとの議論、現地確認を通して、レイアウト案（イメージパース）を作成した。
今のセンター側に広い待合の配置を検討している。南海電鉄への確認も通し、東側に吹き抜けを持っていくのが、技術的にも機能的にも可能なのではないかという方向性で検討している。
職業紹介、技能講習機能を1階に配置し、総務機能ほかは2階におさめる配置案。これが本当におさまるのかということも含めて検討している。
吹き抜けの上部の倉庫は、音が比較的大きくなる場所を当てている。
あくまでもイメージとしてだが、職安の案。駐車場をどうするのか、というところも検討案としてはある。事務機能を一つにまとめてはどうかというところも検討している。
この報告に基づいて議論をいただければと思う。

- イメージパースだけ見れば、熱効率が悪そうだが。
 - ・ そういう議論は、もちろん出たところ。だが、まちを分断していた高架なので、まちをつなげる意味でも開放感を持たせていきたい。全面ガラスになるかどうかはわからないが、あくまでもイメージとして捉えてほしい。熱効率や冷暖房、日照の問題は現在検討中である。
- 金庫の位置が心配だ。
- 金庫問題というか 18 日問題等の日雇雇用保険の問題について。来年の 8 月から振込みになるのではなかったか。
 - ・ 全国一斉に振り込みという形になる。あいりん職安については 7 月から全面的に振込みという形になる。細かいところは次回お話ししたい。
- あいりん職安の仕事が、なくなるのではないか。
- 印紙の現金納付もなくなると聞いたが。
 - ・ そちらも次回にお話ししたい。
 - ・ 訓練の部分としては、フォークリフト等の訓練スペースが何とか取れないか検討中。トイレや居場所の話であるが、どこにつくるかは重要。これはまち全体のランドデザインでしっかり検討していくことになる。仮移転に関して何か質問は？
- 音の問題が心配であると言う声がある。労働者だけでなく、職員に対して。
 - ・ 振動は抑えきれないところがあるが、音は大きい所とそうでない所がある。色々な高架下事例があるので参考にしたいし、音の専門家がいるので相談し、建築学的にどのように対応できるか検討していきたい。そしてどこまでできるかをセンターと相談しながら対応を検討していきたい。
 - ・ 一番音が大きいのは鉄道高架の外、高架内部は意外と低くなる。
- 高架下のある建物で、瞬間的に話ができないほどのうるさい時がある。
 - ・ 技術的には振動を抑えたり、柱に直接付けなかったりとか対応法がある。そういうものを検討している。
 - ・ その建物は駅から遠いので、車両のスピードが速いから音が大きい。今回の場所はそうではないから静か。
- 職安は現金を扱わないとなると、これだけの規模は要らないのではないか。
 - ・ 面積的にどうかといわれると、あまり変わらない。結果的に今より狭い。
- 空いたら、そのスペースで訓練事業できると思う。

○仮移転供用終了後の活用方策について

- ・ 仮移転施設供用終了後の活用方策に対する意見について資料説明。
南海にはこういう意見が出ていることは報告済み。具体的にどのようなになるかはわからないが、地域コミュニティの場として残してほしい、という意見が出ていることを伝えている。
- なぜ仮移転施設を使うのか。本移転施設に機能を盛り込めばいい。
 - ・ 仮とは言え、しっかりしたものができるのであるから、せっかく作ったものを、お金を使いわざわざ壊すのではなく、地域資源として活用するという。市としてはつらい話かも知れないが。
 - ・ 本移転施設は機能を限定的にするわけではない。新しい機能が必要であれば、本移転施設に追加で検討すればよい。まちの機能として、仮移転跡と本移転施設と両方使える話でいいのでは。
 - ・ 本移転を考えるにあたってだが、スペース的に第二住宅も含めた場所のイメージが分かりにくい。例えば、今の仮移転スペースの面積を、本移転の敷地に置いてみて、新しい労働センターを例えば考えるとしたらどんなものができるかということ、たたき台として出してもらうの

はどうか。

- 第二住宅も含めるが、道路部分は含めるのか。
- ・ 道路も含めてである。シミュレーションのためのボリュームスタディを出してよいということであれば、検討してお示しする。
- 萩の森を公園にするとかのイメージもできるのか。
- ・ それはまちのランドデザインの場をお願いしたい。
- 私は、建て替えに反対です。
- 本移転のビジョンが見えたらいいのではなかったか。
- それは他の人でしょう。
- 次回は労働についてということで、日雇雇用保険の18日問題を問いたい。日雇労働の下請けがめちゃくちゃになっている。白手帳の問題で急に取り扱いが変わったということで驚いているが、現場が混乱することを国がやっている。この場で労働者の将来の話を検討しているのに、一方で国が壊している。しっかりと説明してほしい。

- ・ 本日の議論をまとめる。
本移転に向けた8つの検討項目のうち、「多様な相談機能の充実」を3月に遅らせて議論する。訓練事業については細部を詰めていただく。
仮移転に関しては、騒音対策についてさらに詰めた案を出していただければと思う。
居場所等生活に関わることについては、全体のランドデザイン策定において問題提起する形で臨む。
仮移転の有効活用については、駅前活性化との関わりがあるので、全体のランドデザイン策定の中で問題提起していく。
次回は4月以降の社会保険の問題もあるので、そういったことも含めて議論していきたいと思う。

【まとめ】

《本移転施設の機能について》

- 「日雇労働の研修、職業訓練」の検討について
 - ⇒ 訓練事業の検討案については、次回でとりまとめた。
 - ⇒ 次回ご意見をお聞きしたので、持ち帰り、ご議論願う。
 - ⇒ 本移転に向けた8つの検討項目のうち「多様な相談機能の充実」の議論については、3月にご議論いただく
 - ⇒ 本移転施設の「ボリュームスタディ」を検討されたい。

《仮移転施設の整備について》

- 仮移転施設の基本レイアウトの検討について
 - ⇒ 騒音対策等に配慮し、さらに精査した案を出していただきたい。
 - ⇒ 居場所等の生活に関わることについては、全体のランドデザイン策定において問題提起する。

- 「仮移転施設供用終了後の活用方法」の検討について
 - ⇒ 現時点における活用方策（案）の提案は、今回で一区切りとする。
 - ⇒ 駅前活性化との関わりがあるので、全体のランドデザイン策定において問題提起する。

※職業紹介等の労働問題に関する議論について
⇒ 次回の労働施設検討会議で重点的にご議論願う。

- 6 第16回労働施設検討会の日程について
次回検討会議 → 平成29年2月14日（火）午後7時から